

スーパーグローバル創成事業構想調査の課題一覧

該当頁		実施主体	内容	構想調査の記載(一部要約)	進捗状況、資料、検討事項
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局	世界トップレベル大学との協定締結	各分野の世界トップレベル大学と相互認知、相互乗り入れ方式の協定を締結	ユニット・分野に、スーパーグローバルコース関連の全学／部局間の学術／学生交流協定の締結状況を照会する。
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局	スーパーグローバルコースの設置	大学院カリキュラムに、世界トップレベル大学との共同実施科目をコアカリキュラムとする国際共同教育プログラム「スーパーグローバルコース」を設置する。	「スーパーグローバルコース」について、修了要件等を備えたコースという形で整備予定(H28中)なのは、数学系、化学系、人文社会科学系、社会健康医学系の4つ。環境学系と医学生命系はコースとしての設置は未検討。 ユニット・分野に、共同実施科目の実施状況を照会する。 * 共同実施科目の定義は、以下のとおりとする。 ①JDにおける共同開設科目のように、両大学が共同して開設・実施する科目 ②連携大学と、お互いにカリキュラムの一部とすることを認定しあっている科目 ③一方の大学のみで開設する科目を、連携大学の教員が担当する場合
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局	ジョイント／ダブルディグリーへの発展	国際共同学位プログラム「ジョイント／ダブルディグリープログラム」へと発展させる。	ジョイント:文学研究科－ハイデルベルク大学(H28設置審予定)、医学研究科－マギル大学(H30開始を目指す) ダブル:社会健康医学系で新規2件開設予定(H28)、環境学系でも新規3件開設予定(H30)
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局(調査では、数学・医学・化学系ユニット)	招へいしたトップレベル研究者による授業、学生指導	世界トップレベル大学の研究者を特別招へい教授等の職名で任用(併任)して、両大学が連携して設ける「スーパーグローバルコース」の授業や学生指導を担当させる。	ユニット・分野に、特別招へい教授等の招へい実績および授業・学生指導の提供実績を照会する。
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局	学生の海外派遣・研究指導、コース修了認定	同コースを主専攻とする学生を海外の連携大学に派遣して研究指導を受けさせ、一定以上の単位を取得した学生に対してコース修了(主専攻修了)を認定する。	ユニット・分野に、学生の派遣数・単位取得数を照会する。コース修了だけでなく、海外連携大学での単位取得等も実績としてカウントする。
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局	副専攻履修の設定	「スーパーグローバルコース」を主専攻とする学生以外にも、同コースの開講科目に関連分野(研究科・専攻等)の学生に副専攻履修として開放する。例えば、数学系のスーパーグローバルコース科目を理学研究科の他専攻(生物科学専攻等)や情報学研究科(複雑系科学専攻等)ならびに経済学研究科、人間・環境学研究科等の他研究科の学生に副専攻としての履修を認めるなど。新科学・学際融合科学研究を奨励する。化学系、人社系のスーパーグローバルコースについても同様に学内の副専攻履修として開放する。	ユニット・分野に、現状の「スーパーグローバルコース」の開講科目の開設状況、履修状況(他専攻・研究科・学部生への開放の状況も含む)を照会する。
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局	学部生向けチャレンジコース科目群の開設	全学の学部から選抜した学部生に対し、チャレンジコース科目群を開設して、次代を担う優れた頭脳を学段落階から発掘・育成するとともに、柔軟な大学院進学の仕事組むを利用してその才能を開花させるなど、i-CoKUが中心となって本構想を研究科・学部に展開する。	・ユニット・分野に、現状の「スーパーグローバルコース」の開講科目の開設状況、履修状況(他専攻・研究科・学部生への開放の状況も含む)を照会する。
p11	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局(海外拠点を通して)	スーパーグローバルコース、ジョイント／ダブルディグリー実施のための調査、調整	本学の既設または設置準備中の海外拠点(ロンドン、ハイデルベルク、バンコク・アセアン)および今後新設予定の海外拠点(北米東海岸、北米西海岸)を通じて、「スーパーグローバルコース」・「ジョイント／ダブルディグリープログラム」開設のための当該国の法令や学内規程等の調査・調整を行うとともに、世界トップレベル大学への学生派遣を行う。	拠点との関わり方については今後の課題。
p12	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局(海外拠点を通して)	世界トップレベル大学への学生派遣		ユニット・分野に、学生派遣数実績を照会する。
p12	全体構想	スーパーグローバルコース実施部局	MOOCsの配信	i-CoKUの科目は本学が我が国で最初に加入したedXコンソーシアムが管理するMOOCs(大規模オープンオンライン講義)を通じて、反転学習型講義をオンライン配信し、積極的に学外、国外の大学生・高校生へ公開する。	・4分野の提供済み講義一覧を資料とする。 ・新規2分野に作成をプッシュする。

p12	特徴1	i-CoKU	i-CoKUの設置	「スーパーグローバルコース実施準備ユニット」を發展させて、平成26年度からはi-CoKUを設置し、全学の関係部局が集って実運用する予定である。	i-CoKUは「実施運営協議会」あるいは「スーパーグローバルコース」と置き換える？
p12	特徴1	総合生存学館	多言語多文化科目のi-CoKU(スーパーグローバルコース)への提供	大学院総合生存学館(思修館)による多言語多文化科目のi-CoKUへの提供も全学的な教育の国際化に大きく資するものである。	思修館での開設状況の照会を行う。
p13	特徴3	国際高等教育研究開発推進センター？	オーリンカレッジとの連携(FD研修の実施)	イノベーション人材育成に定評のあるフランクリン・オーリンカレッジ(米国マサチューセッツ州)と連携協定を結び、機械系、電気系、情報系の学部専門課程における企業家精神授業を含む産学連携型の実践的な教育についてFD相互研修を行い、イノベーション創出に結びつける。	国際高等教育研究開発推進センターと別途協議
p13	特徴3	i-CoKU、教務企画課、産官学連携課？	産業界との連携、産業界海外拠点への中長期インターンシップの実施	i-CoKUを「産官学オープンイノベーション教育組織」としても位置付けて、化学工学や医学・医科学等において得られた成果に関する共同研究、産業界海外拠点への中長期研究型インターンシップを推進して、継続的なイノベーション人材育成の組織として整備する。 注:京大はH25に経産省の「中長期研究人材交流システム構築事業」に採択され、「産学協働イノベーション人材育成コンソーシアム事業」を代表幹事として進めており、母体運営となる一般財団法人「産学協働イノベーション人材育成協議会」を2014年に設立(現代表理事は北野理事)。大学院生の企業への中長期の「就業体験型インターンシップ」の推進をしている。	当該事業とスーパーグローバルコース実施部局を連携させていく必要がある。
p65	支援期間終了後の事業展開	i-CoKU、教務企画課、産官学連携課？	「産官学オープンイノベーション教育組織」と「中長期研究型インターンシップ」	i-CoKUを本事業終了後も安定して全学事業として發展させていくには、産業界からの参加や支援が得られるよう、i-CoKUを「産官学オープンイノベーション教育組織」としていく必要がある。このため、本学が「中長期研究人材交流システム構築事業」の主幹校となって構築を進めている「オンライン中長期人材交流支援システム」を通じて、イノベーション人材育成を目的とした海外拠点への「中長期研究型インターンシップ」を推進することが考えられる。この人材交流システム構築事業は、十分なセキュリティ管理の下で、企業からの問題・課題提起や学生側からのテーマ提案の双方向性をもち、本学と産業界の共同研究に発展しやすい、財政支援期間終了後の財務的な備えとなることが期待される。	同上
p61	構想実現のための体制構築	i-CoKU、教務企画課、産官学連携課？	事業終了後は、 ・学域・学系制を通じて通常予算内に埋め込んでいく ・終了後のリーディングプログラムを引き継ぎ、iCoKUを「産官学オープンイノベーション教育組織」として産業界からの参加や支援を得ていくことで継続実施 ・産業界海外拠点への中長期研究型インターンシップ ・各国の国際共同研究費を得ていく。	学域・学系制を通じていけば通常予算内に埋め込んでいくだけでなく、研究分野によっては、終了後の博士課程教育リーディングプログラムを引き継ぎ、産官学オープンイノベーション教育組織として産業界からの参加や支援を得ていくことで、i-CoKUを本事業終了後も安定した全学事業として継続実施することができる。このため、世界トップクラス大学との先端的共同研究で得られた成果に関する産業界との共同研究、イノベーション人材育成を目的とした海外拠点への中長期研究型インターンシップを推進する。また、共同研究の成果とワールドプレミアム高等教育ネットワークを足場に、「国際科学技術共同研究推進事業」等に相当する各国の国際共同研究費を得ていくことも極めて有望である。	今度の検討課題とする。
p63	実施計画のうち、未実施・未検討と思われるもの	スーパーグローバルコース実施部局 高等教育研究開発推進センター？ スーパーグローバルコース実施部局	単位認定可能なSPOC(Small Private Online Course:大学や企業内での非公開オンライン講座)の作成とオンライン配信(H29) オーリンカレッジとのFD及び共同実施科目の実施 スーパーグローバルコース履修者の国際インターンシップの増加(H32)		

	NO	該当 頁	成果指標	数値管理 担当部署	個別の取組内容	個別の取組内容 の実施主体	構想調書の記載(要約、参考)	進捗度合、今後の検討事項
共通	82	p51	TA活用の実践		SGU-STAの導入	スーパーグローバルコース実施部局	SGU-STAとは、通常のTA以上の能力を必要とし高度な業務を担当するTAを指し、例えば、理学部においては、平成28年度入試から実施する特色入試入学者など、数学に意欲と高い資質を持つ学部生向けセミナーのチューターや、理学研究科数学・数理解析専攻のスーパーグローバルコースを副専攻履修する他研究科・他専攻大学院生、チャレンジ履修する学部生に対しての高度な教育補助業務を行うTAとして、SGU-STAを雇用する。また、特別招へい教授の英語講義レクチャーノート作成などの高度な業務についても、SGU-STAが担当する。	
共通	49	p34	渡日前入試、入学許可の実施等		スーパーグローバルコースにおける渡日前の科目履修許可	スーパーグローバルコース実施部局	「スーパーグローバルコース」それぞれの共同実施科目(10単位以上の英語による科目)において世界トップレベル大学の学生が、インターネット会議システムなどを用いたインタビューを経て、渡日前に本学で開講する共同実施科目の履修を許可され、取得した授業単位は母校の修了に必要な単位として認められる。	
共通	28	p22-2	外国語による授業科目数・割合	教務企画課	スーパーグローバルコース設置による英語授業の拡充	スーパーグローバルコース実施部局	4分野のスーパーグローバルコースでは修士課程でそれぞれ10単位以上の英語による科目を新たに備えることになる。また、経済学部「グローバルコース」(仮称)設置して、英語のスコアと英語科目の履修でコース修了を認定する。文学部では「日本語・日本文化」を扱う英語提供科目を新規開講する。	それぞれのコースにおける英語による科目(共同実施科目)の単位数を把握する必要がある。
共通	30	p24-2	外国語のみで卒業できるコースの数等	教務企画課	スーパーグローバルコースの設置	スーパーグローバルコース実施部局	共同実施科目として10単位程度以上の英語による科目を設ける。「スーパーグローバルコース」の外国人留学生については、実質的に英語で学位を取得することが可能となる。	それぞれのコースにおける英語による科目(共同実施科目)の単位数を把握する必要がある。
共通	79	p49	学生の実質的学びの時間の確保に関する取組		スーパーグローバルコースにおけるMOOCs配信	スーパーグローバルコース実施部局	スーパーグローバルコース実施部局においてMOOCsをオンライン配信して、積極的に学外、国外の大学生・高校生へ公開する。また、学部学生も時間外学習時間に利用することが可能なことから、スーパーグローバルコースの主専攻・副専攻履修への導入授業にもなる。	

	NO	該当 頁	成果指標	数値管理 担当部署	個別の取組内容	個別の取組内容 の実施主体	構想調書の記載(要約、参考)	進捗度合、今後の検討事項
共通	46	p32	柔軟な学事暦の設定の有 無		承認済みの柔軟な学事 暦のもとでプログラム実 施、共同実施科目の実 施	スーパーグローバ ルコース実施部 局、国際教育交流 課	学部生にはジョン万プログラムによるサマープログラ ム留学、大学院生にはスーパーグローバルコースの 履修をさせる。特別招へい教授等による集中講義形 式の授業、8週80アカデミック時間のクォーター制の 授業、遠隔講義システムによる相手大学開講の授業 等を組合せることで、効果的な共同実施科目を設 計・実施	
大学独	95	p57-5	遠隔講義システムによる 講義等ICT を活用した国 際共同実施科目数	教務企画 課	遠隔講義システムの利 用、SPOC(小規模非公 開オンライン講座)等の 実施	スーパーグローバ ルコース実施部 局、全部局	世界トップレベル大学との共同実施科目の中には遠 隔講義システムやSPOC(小規模 非公開オンライン講座)として実施するものもある。	
共通	43	p30	シラバスの英語化の状 況・割合	教務企画 課	スーパーグローバル コースにおける英語シ ラバス整備	スーパーグローバ ルコース実施部 局、チャレンジ履 修部局	「スーパーグローバルコース」それぞれで共同実施 科目では10単位以上の英語による科目をそろえるこ とになる。したがって、同コースを設置する医学研究 科、理学研究科、工学研究科、経済学研究科、文学 研究科、農学研究科の当該科目のシラバスはもちろ ん、チャレンジ履修を可能とする医学部、理学部、工 学部、経済学部、文学部、農学部においても英語に よるシラバスが用意される。	それぞれのコースにおける英語 シラバスの実施状況を把握する 必要がある。
共通	31	p24-2	外国語のみで卒業できる コースの数等	教務企画 課	英語のみで学位取得が 可能なコースの新規設 置	スーパーグローバ ルコース人文社会 科学系ユニット、 経済学部	日本・アジア学に関する人文社会科学分野におい て、既設の「東アジアコース」に加えて、新たに本 業による英語のみでの学位取得が可能な国際学位 (準備)プログラムを人文社会系国際共同学位課程 の共通基盤「グローバル・サステナビリティ研究ア ジア拠点(AGSS)」予科として設置する。 経済学部「グローバルコース」(仮称)を設置	
共通	58	p39	外国語による情報発信等		スーパーグローバル コースに関する情報発 信	スーパーグローバ ルコース実施部局	平成26 年度からWeb を通じた発信とパンフレット・要 覧等の刊行による紹介を行う。	数学、化学、人文社会科学、環 境学においてSGU独自のHP開 設済み。社会健康分野は専攻 と一体化しているため、専攻の HPを英語化済み。パンフレット も刊行済み。